オーストラリア・クイーンズランド州の高校成績を利用した大学入学者選抜制度

大学入試センター　山村　滋，平　直樹

はじめに

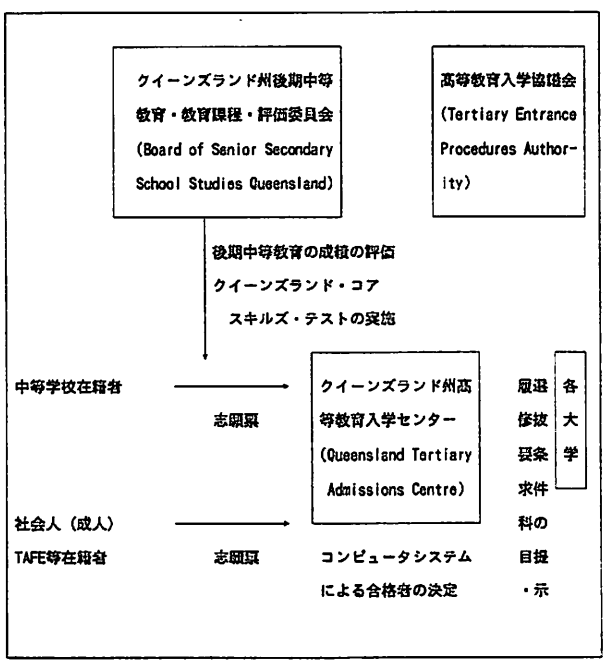
本稿は，最近までわが国において紹介・研究されることのほとんどなかったオーストラリアのクイーンズランド（Queensland）州における大学入学者選抜制度を，選抜資料の利用システムに焦点を当てて明らかにする。高等学校（中等学校）側の評価資料の利用という点で，世界的にも最も先進的なものの一つであると考えられるのが，同州の大学入学者選抜制度である。

1．クイーンズランド州の大学入学者選抜制度の概略

図1は，クイーンズランド州の大学入学者選抜制度の見取り図である。大学入学志願者は中等学校在籍者・社会人に限らずクイーンズランド州高等教育入学センター（ＱＴＡＣ）に志願票を提出する。大学は各コースごとに履修要求科目や選抜の条件などを提示する。後期中等教育からの志願者を選抜するための学力情報は，クイーンズランド州後期中等教育・教育課程・評価委員会（Board of Senior Secondary School Studies Queensland: BSSSS）がＱＴＡＣに提供する。ＱＴＡＣではコンピュータシステムにより，大学からの条件に照合しながら，合格者の決定を行う。高等教育入学協議会（Tertiary Entrance Procedures Authority：ＴＥＰＡ）は，入学者選抜手続き等について州の教育大臣に勧告を行ったり，「高等教育入学のための成績証明書」（後述）の発行などを行う。

以下，選抜資料，選抜のプロセスの順に見ていく。

図1　クイーンズランド州の大学入学者選抜制度の見取り図



2．選抜資料

2.1　選抜資料

クイーンズランド州では，選抜資料として，主に以下の3点が利用される。

①後期中等教育（year 11, year 12）の2年間に履修した科目とその履修期間およびその成績

②オーバーオール・ポジション(Overall Position：OP)

③フィールド・ポジション（Field Position：FP)

また，直接の選抜資料としては，利用されないが，ＯＰとＦＰを算出するために利用されるテストで，中等学校から直接，高等教育へ入学を志願する者は全員受けなければならないテストとして，クイーンズランド・コア・スキルズ・テスト（Queensland CoreSkills Test：QCS Test)がある。①とＱＣＳテストの成績（5段階のグレードによる評価）は，「後期中等教育修了証書（Senior Certificate)」に記載される内容である。②と③は「高等教育入学のための成績証明書（Tertiary Entrance Statement)」に記載される内容であり，これは，「後期中等教育修了証書」とあわせて，大学入学者選抜のための資料となる。

2.2　後期中等教育の2年間に履修した科目とその履修期間およびその成績

大学入学志願のためには，ＢＳＳＳＳの認定する科目（Board subjects，以下「認定科目」とする）を，後期中等教育の2年間の間に次のように履修しなければならない。クイーンズランド州の中等教育は，前期・後期のセメスター制がとられているが，少なくとも3科目を2年間，すなわち四つのセメスターにわたって履修し，全部で，20セメスター分の履修が必要なのである。

なお「認定科目」は表1に示すように，1996年度に中等学校最終学年を終える生徒の場合，52科目である。このように多様な「認定科目」が設定されている。

各科目の成績は，5段階で評価される(Very High Achievement：VHA，High Achievement：HA，Sound Achievement：SA，Limited Achievement：LA，Very Limited Achievement：VLA)。

各科目に関しては，詳細なシラバス（教授要目）が作成されている。これは，どこの中等学校でも同じ教育内容を提供し，同じように成績評価がなされるためには，必ず必要となるものである。

各科目の成績評価が，選抜情報の基本となり，各科目の成績評価（5段階評価）は，州内での比較可能性，一貫性を確保するために学校間の成績の調整（moderation）がＢＳＳＳＳによって行われる。このような5段階のスケールは，大学入学者の選抜には，粗すぎ

表1　1996年度に中等学校最終学年を終える生徒のための「認定科目」

英語	地球科学
フランス語	総合科学
ドイツ語	海洋科学
インドネシア語・マレーシア語	農学
イタリア語	会計学
日本語	秘書実務
ロシア語	経営学（試行）
中国語（試行）	健康教育（試行）
ベトナム語	体育（試行）
ギリシャ語	家政学
ラテン語	工学（試行）
スペイン語	グラフィックス
古代史	工学
近現代史	美術
地理	音楽
政治学（試行）	スピーチ・ドラマ
経済学	演劇
基礎社会学（試行）	映画・テレビ
法学	ダンス
論理学	宗教学
数学A	情報処理
数学B	ドラマ
数学C	映画・テレビ（試行）
化学	健康教育・体育
物理学	音楽（試行）
生物学	音楽（実技）（試行）

て役に立たないので，さらに細かくする必要がある。選抜情報として利用される尺度が，ＯＰとＦＰである。

2.3　ＯＰおよびＦＰ

ＯＰとは，各生徒の後期中等教育で履修した科目の成績（もっとも良い成績の５科目）をもとに，各生徒の学力が，州全体においてどこに位置付くかを示すものであり，25段階で表示される（１が最上位）。つまり，総合学力の指標である。

ＦＰとは，各生徒に関しての，知識・技能に関する五つの評価領域別の指標である。五つの評価領域とは，

①領域Ａ：長文による表現（アイデアの複雑な統合・分析を含む）
②領域Ｂ：短い文章によるコミュニケーション（読解や英語による基礎的な表現を含む）
③領域Ｃ：基礎的な数学（簡単な計算やグラフ・表の解釈を含む）
④領域Ｄ：複雑な問題を解くこと（数学の記号や抽象的なものを含む）
⑤領域Ｅ：実際的なパーフォーマンス（身体的・創造的な芸術や表現技能を含む）

である。各科目は，その科目の内容・性質によって，上記の五つの領域別に，それぞれの固有の重みが定められている。

例えば，「英語」では，領域Ａ，Ｂ，Ｃ，Ｄ，Ｅ，それぞれ５，５，１，０，４であり，「物理」では，それぞれ１，２，５，５，１である。なお，ＦＰは10段階（１が最上位）で表示される。ＯＰとＦＰは，ＱＣＳテストの結果を用いて尺度化（scaling）される。

2.4　尺度化の手続き

異なる学校の異なる履修科目の成績を大学入学者の選抜資料として利用しつつ，公平性を保つためには，尺度化は必須のことと考えられている。尺度化によって，科目選択の有利不利と成績の学校間格差を取り除くのである。尺度化の手続きは些か複雑であるが，概略は以下の通りである。

まず，科目担当の教師が先述した各科目の評価の５段階の成績毎に生徒に順位をつける次に，（14名以上の場合）最上位の生徒を400，最下位の生徒を200として，科目成績（ＳＡＩ）を定める。それを元に，科目選択の影響を除くための学校内での尺度化と学校間格差を除くための学校間での尺度化が行われるのである。

学校内の尺度化においては，次節で述べるＱＣＳテストの結果を利用して，異なる科目のＳＡＩが比較できるように尺度化を行う。すなわち，科目や学校に依らない共通の学力尺度であるＱＣＳテストの成績によって，ＳＡＩの平均とちらばりが調整されるのである。簡略化して言えば，ＱＣＳテストで高成績を挙げた集団のＳＡＩは高く評価され，低い成績しか取れなかった集団の評価は低く押さえられる。調整後の成績を尺度化ＳＡＩ（Scaled ＳＡＩ）と呼ぶ。

さらに，各個人毎に上位５科目の尺度化ＳＡＩが平均され（ＯＡＩ），その値が学校間で尺度化される。学校間の尺度化にも同様にＱＣＳテストの結果が用いられ，得られた値は尺度化ＯＡＩ（Scaled ＯＡＩ）と呼ばれる。ＯＡＩの値から，最終的に25段階のＯＰの値が定められるのである。

ＦＰの尺度化手続きもＯＰと本質的には同じであるが，いくつか細かい点で違いが見られる。まず，ＱＣＳテストを用いるといっても，全ての成績が利用される訳ではない。各領域（領域Ａ～領域Ｅ）に関係する部分だけが用いられる。また，各科目の成績も，成績上位の科目から当該領域への重みが合計15になる分だけ用いられる。さらに，学校間の尺度化は行われない。ＦＰに関して学校間の尺度化，すなわち，調整を行わない結果として，後述の選抜プロセスの中で合否ボーダーに並んだ場合には，いわゆる有力校の並の成績の

生徒よりも相対的に学力の低い学校で抜群の成績を修めた志願者を優先的に合格させることになる。

2.5 ＱＣＳテスト

各科目の学内成績を，ＯＰおよびＦＰに変換するためのテストが，ＱＣＳテストである。「ＱＣＳテストは，シラバスに基づいた，クイーンズランドの後期中等教育カリキュラムの49の共通要素（Common Curriculum Elements: CCEs）に関する生徒の到達度を測る」カリキュラム横断型テスト（総合学力テスト）である。

ＱＣＳテストの問題は，三つの種類から構成されている。①エッセイ，②多肢選択式問題，③短答式問題の３種類であり，多肢選択式問題は２種類（多肢選択Ｉと多肢選択II）ある。

2.6 共通カリキュラム要素（ＣＣＥｓ）

ＱＣＳテストは，ＣＣＥｓに関する到達度を測るテストである。ＣＣＥｓは，クイーンズランド州の「認定科目」のシラバスのうち，二つ以上のシラバスに共通して存在する要素である。紙と鉛筆という形式のテストで測れる要素は，長文の要約ができること，グラフが書けること，仮説を立てること，統合すること，など49である。

3．選抜のプロセス

3.1 選抜のスケジュール

クイーンズランド州では２月から新年度が始まるが，志願票はその前年の９月に受付けられる。六つの大学もしくはコースまで志望順位をつけて志願することができる。ＢＳＳＳＳによる後期中等教育の成績評価は12月中旬に公表される。そして，12月下旬頃から１月中旬頃まで，ＢＳＳＳＳの成績評価に対する不服申立の期間が設定されている。

こうして，合否は１月中旬に決定される。さらに，不合格者は，各大学に対して不服申立をすることができる。志願―選抜―合格のスケジュールを示すならば，下の図２のようになる。

3.2 選抜のプロセス

それでは，２．でみたような選抜資料を利用してどのように選抜が行われるかをみてみよう。図３に示したように，まず，大学側の提示する履修要求科目とその履修期間およびその到達水準についての条件を満たしているかどうかが問われる。1997年度の場合，例えば，クイーンズランド大学の法学コースでは「英語」を後期中等教育の２年間履修し，その成績がＳＡ以上であることである。全体的に

図２　志願―合格のスケジュール

8月～9月	12月	12月下旬～1月中旬	1月中旬
QCS テストの受験 QTACへの志願票の提出	中等学校の科目別成績 QCS テストの成績 OP, FP の公表	成績に関する不服申立	合否の決定

図３　選抜資料の利用の順序

第一段階	第二段階	第三段階	第四段階
履修科目・期間 成績	ＯＰ	ＦＰ	各科目の成績など

みれば，履修を要求される科目は，１科目ないし２科目の場合が多く，また，その到達水準はＳＡの場合がほとんどである。

表2　ＯＰ・ＦＰの選抜への利用

第二段階	第三段階	
ステップ1	ｽﾃｯﾌﾟ2	ｽﾃｯﾌﾟ3
OP	FP A	FP B
1		
1		
1		
1		
1		
2		
2		
2		
2		
2		
2		
2		
3		
3		
3		
3		
3		
3		
3		
3		
3		
3		
4	1	
4	1	
4	2	
4	2	
4	2	
4	2	
4	3	1
4	3	3
4	3	4
4	3	4
4	3	4
4	3	4
4	4	6
4	5	6
5	7	7
⋮	⋮	⋮
25		

次に考慮されるのがＯＰである。例えば，定員が30人であるとしよう。表２に示すように，36人までが，ＯＰが４以上であり，ＯＰが３までの者が22人いる場合，ＯＰが３以上の者，すなわちＯＰが１，２，３の者は，全員合格となる。次に，ＯＰが４の者14人の中から，定員を満たす残りの８人を選抜しなければならない。このような場合に関してＦＰが利用される。各大学の各コースは，このような場合に，上に述べたＡ～Ｅのどの領域を考慮するかを，予め，履修要求科目などとともに公表しているのである。例えば，先のクイーンズランド大学の法学コースでは，領域ＡまたはＢにおいて，ＦＰが良い者から選抜し次に領域ＣにおいてＦＰを利用して選抜することになっている。したがって，ＯＰが同じ場合に領域Ａを次に考慮し，さらに領域ＡのＦＰも同じ場合には，領域Ｂを次に考慮するとしている場合には，ＯＰ４の者14人のうちから，領域Ａにおいて，良い成績の者からまず６人が選抜される。さらに，ＦＰが３の者６人のなかから，領域Ｂの上位の者２人が選抜されることになる。このように，総合学力によって合格者を決めたあと，ボーダー層では，五つの評価領域のうちの特定の領域の評価に基づいて合格者が決定される。これで合格者が決まらない場合には，各科目の成績などが利用される。

おわりに

クイーンズランド州の大学入学者選抜制度では，50以上もの「認定科目」の成績をもとにして，選抜がなされているのである。その際，中等学校での各科目の成績をＱＣＳテストという尺度化のための総合学力テストを利用し，ＯＰ・ＦＰを算出することによって，選抜資料としているのである。

クイーンズランド州の選抜制度の特徴は，以下のようにまとめることができよう。

第一に，中等学校での多様な科目の選択が可能になっているということである。

第二に，大学入学者選抜に関係なく，「後期中等教育修了証書」に記載される中等学校の成績の評価自体が，科目ごとの成績の比較可能性と信頼性を保証できるようになっているのである。それは，ＢＳＳＳＳによるシラバスの開発，「認定科目」の提供についての各学校単位での承認，さらに，学校間の成績評価の比較可能性を担保するための調整（moderation），といったシステムによって支えられている。

第三に，科目間の比較可能性に関しては，ＱＣＳテストを利用した科目間成績の調整システムによって保証されている。別の言い方をすれば，科目選択における有利・不利を生じさせないという意味での選抜の公平性を確保しながら多様な科目選択を可能にするのがＱＣＳテストを利用した科目間成績の調整システムなのである。

第四に，ＱＣＳテストは科目間の成績の調整に使われ，このテストの成績自体は，直接の選抜資料とはしない，という点で，共通テストの影響力を小さくしようとしている点も見過ごしてはならない。

第五に，高等教育からの要求は，履修要求科目の設定をとおして反映されるシステムである。個別大学の個別のコースは，定められた特定の科目を履修し，特定の水準に到達することを要求している。ただし大学からの要求は，大抵の場合，１科目もしくは２科目で，その到達水準もＳＡという中程度の水準である。これは，大抵の科目の場合，履修者の７割以上がＳＡ以上を取得するといったように，到達が困難な水準ではない。

第六に，多様な選抜資料・情報が用いられている。とくに，総合学力の情報だけでなく，ＦＰを利用することによって，選抜制度という競争的なシステムに，個々人の適性あるいは能力の特徴も評価対象とする工夫がなされているといえよう。

第七に，各科目やＱＣＳテストの評価結果，およびＯＰ・ＦＰの値についての不服申立の制度と大学不合格者に対する各大学への不服申立の制度といった，選抜の透明性を支えるシステムが工夫されているのである。

文献

平　直樹（1996）オーストラリア・クイーンズランド州の入試改革，国立大学入学者選抜研究連絡協議会『大学入試研究の動向』，第13号，pp.11-15。

山村　滋（1996）オーストラリア・クイーンズランド州における大学入学者選抜制度―中等学校側の評価資料の利用システムに焦点を当てて―，大学入試センター『研究紀要』，第25号，pp.41-58。